

「きべりはむし」再発行に寄せて

兵庫県の豊かな自然の保全とそこに生息する昆虫類の保護を目的とする有志が「兵庫昆虫同好会」を結成し、1972年に機関誌として発行したのが「きべりはむし」です。昆虫類の分布や生活史に関する記事は年々充実さを増し、会員数も約100名を擁し、地方の昆虫同好会誌の中で確固たる地位を築き上げてきました。兵庫県の昆虫類の動向を知る上で欠くことのできない資料を提供してきたといえます。

2000年の暮れに、会の中心的存在として活躍してこられた高橋寿郎さんがご逝去されたことは真に残念ではありましたが、その後も編集局のご努力と会員の協力により「きべりはむし」の発行を続けられました。しかし、2004年に発行された第31巻第2号を最後にこれまで休刊状態となっております。

この度、NPO法人こどもと虫の会の発足を契機として、兵庫昆虫同好会とこどもとむしの会との共同により本誌が再発行される運びになりましたことは喜びに耐えません。こどもとむしの会は、佐用町にあります兵庫県立昆虫館の閉館を惜しみ、佐用町に働きかけ、町立の昆虫館としての再出発を支援するために結成された有志の集まりです。本年2008年5月に結成総会を開き、9月26日付でNPO法人として認可された経緯があります。こどもとむしの会の正会員は現在50数名で、その一部は兵庫昆虫同好会の会員でもあります。今後は両会の協力により、兵庫県の昆虫相をさらに解明していくと共に、希少価値とも言える地方の小さな昆虫館の火を守っていくことが期待されます。これを機会に、兵庫昆虫同好会の会員の方もNPO法人の正会員となり、昆虫館の存続に賛同していただければ幸甚です。

今後は「きべりはむし」の内容にも幅のある変化が期待できます。昆虫相や生活史の情報に加え、昆虫類に関するトピックスや分かりやすい総説・解説等を載せることで、両会の会員が共に楽しめる昆虫の総合誌となる可能性もあります。共同発行による相乗効果として、両会の益々の発展を期待しますと共に、「きべりはむし」が昆虫少年・少女にも良いバイブルになることを願っています。

神戸大学名誉教授

NPO 法人こどもとむしの会理事長

内藤 親彦